

Organo de Hokkajda Esperanto-Ligo

# LEONTODO

N-ro 68

第46回北海道エスペラント大会プログラム	1
Programo de la 46a kongreso	2
La Espero . La Fagiĝo	3
Bonveniga saluto de prezidanto de HBL	4
第46回北海道エスペラント大会出席者名簿	5
編集後記	6
国際交流と言語問題 (第45回大会講演の要約)	
J E I 広報部長 梅田 善美	7

~~~~~

別冊付録 (大会記念)

北海道エスペラント連帯所談

エスペラント文藝目録 - - 第1部戦前編

7-1982

第46回北海道エスベラント大会プログラム

1982年8月7日(土)～8日(日)

札幌市中央区南9条西1丁目

ホテル ノースシテイ

第1日(8月7日)

15:00～ 受付開始、自由懇談

(夕食は各自負担で講演開始までにすませて下さい。)

18:00～20:00

市民公開講演会

講師 日独学术交流会東京事務所長 ウルリヒ・リンス 氏

通訳 日本エスベラント学会広報部長 梅田善美氏

演題 「ドイツ人から見た最近の日本」  
「ドイツのジャーナリストから見た最近の日本」

20:00～ 梅田、リンス両氏を囲んで

第2日(8月8日)

9:00 大会受付

9:30 開会宣言、大会準備委員長挨拶

議長選出

HEL会長・来賓挨拶

HEL及び地方会報告

自己紹介

HEL役員選出

次期大会開催地決定

11:40 記念撮影

12:00 昼食

13:00 講演 梅田善美氏

ウルリヒ・リンス 氏

14:40 閉会宣言

P R O G R A M O  
de  
La 46-a Kongreso de Esperantistoj  
en  
Hokkajdo

1982-08-07-08  
en Sapporo  
ĉe Hotel North City

La Unua Tago (la 7-an de aŭgusto, sabato)

15:00 - 17:00 Giĉeto 2-a etaĝo

1) interkona horo. la veteranoj gvidas la komencantojn,  
aŭ interbabilas kun amikoj en salono aŭ en privata  
ĉambro.

2) vespermanĝu individue

18:00 - 20:00 La Publika Preleg-kunveno

d-ro Ulrich Lins prelegas

s-ro Yoshimi Umeda interpretas

temo: Kiel germanoj diskutas pri Japanio ?

20:00 ..... Libera babilado kun du gastoj

La Dua Tago (la 8-an de aŭgusto, dimanĉo)

9:00 - 9:30 Giĉeto

9:30

1) Malferma deklaro

2) La espero

3) Bonveniga saluto de la kongresa komitato

4) Elekto de la kongresaj prezidantoj

5) Salutoj de la prezidanto de HEL kaj de la gastoj

6) Raportoj

7) Sinprezentado

8) Elekto de HEL-komitatanoj

9) Decido de la venontjara kongresejo

11:40 Memoriga fotado

12:00 - 13:00 Tagmanĝo

13:00 - 14:40 Prelegoj de s-ro Umeda kaj d-ro Lins

14:40 - 15:00 Ferma soleno

Tagiĝo

Disiĝo

## La Espero

En la mondon venis nova sento,  
Tra la mondo iras forta voko;  
Per flugiloj de facila vento  
Nun de loko flugu ĝi al loko.  
Ne al glavo sangon soifanta  
Ĝi la homan tiras familion:  
Al la mond' eterne militanta  
Ĝi promesas sanktan harmonion.  
Sub la sankta signo de l' espero  
Kolektiĝas pacaĵ batalantoj,  
Kaj rapide kreskas l' afero  
Per laboro de la esperantoj.  
Forte staras muroj de miljaroj  
Inter la popoloj dividitaj;  
Sed dissaltos la obstinaj baroj,  
Per la sankta amo disbatitaj.  
Sur neŭtrala lingva fundamento,  
Komprenante unu la alian,  
La popoloj faros en konsento  
Unu grandan rondon familian.  
Nia diligenta kolegaro  
En laboro paca ne laciĝos,  
Ĝis la bela sonĝo de l' homaro  
Por eterna ben' efektiviĝos.

## La Tagiĝo

Agordu la brustojn, ho nia fratar'  
Por nova pli vigla jam kanto!  
Ĝi sonu potence de montoj al mar',  
Anoncu al ĉiu dormanto:  
Tagiĝo, tagiĝo radias en rond',  
La ombroj de nokto forkuras el mond'!  
Post longa migrado sur dorna la voj'  
Minacis nin ondoj de l' maro:  
Sed venkis ni ilin kaj velas kun ĝoj'  
Al verda haven' de l' homaro.  
Post longa batalo, maldolĉa turment',  
La stela standardo jam flirtas en vent'.  
En ĉiu mondparto, en ĉiu ter-zon',  
En koroj de centoj da miloj,  
Jam vibras pro nia saluto reson',  
Do kantas de l' tero ni filoj:  
Tagiĝo, tagiĝo radias en rond',  
La ombroj de nokto forkuras el mond'!

Bonveniga saluto de Prezidanto de H.E.L.

Estimataj gesinjoroj.

Mi estas tre ĝoja, ke ni povas havi la 46an Hokkjdo-Kongreson kun vi en bonaj sanoj. Ankaŭ al ni estas granda plezuro, ke ni unuafoje povos havi memoran prelegon por urbanoj sub la temo " Germanoj diskutas pri Japanoj" de D-ro Lins (s-ro Umeda interpretas) Ni esprimas elkorajn dankojn al D-ro Lins kaj s-ro Umeda, kiuj bonvolis nian inviton.

Jaron post jaro la terglobo malgrandiĝas kaj malgrandiĝos pli kaj pli. Malgru la eminentuloj en la mondo bone scias, ke la popoloj sur la terglobo ne povas vivadi sen interhelpadoj de mondurbanoj. Sed en la mondo sinsekve naskiĝas naciismaj nacioj kaj daŭras batarojn. Fortaj nacioj ĉiam deklaras pacon sub la suno, kaj vendadas armilojn en nokta mallumo.

Ĉu ili ne povos rimarkigi sen baptito de Atombombo ?

Nia Hokkajdo-Esperanto-Kongreso jam forpasis duonjarcento de la unua. Diversaj cirkonstancoj en la mondo postulas internacilingvon nuntempe. Kion ni devas fari? Nuna agado de nia movado ne estas studado de Esp-historio, sed disvastigo de nia lingvo.

Ni marŝu denove, ekde hodiaŭ energie ! VIVU ESPERANTO !

dankon

  
KIMIHARA Kimiharu

第46回北海道エスベラント大会出席者名簿

(☆印は両日参加)

|        |        |                      |
|--------|--------|----------------------|
| ☆吉原正三郎 | 001    | 札幌市北区麻生4-9-14        |
| ☆留目雅之  | 063    | 〃 西区発寒3条6丁目          |
| ☆留目昌子  | 〃      | 〃                    |
| ☆椿陽考   | 001    | 〃 北区新琴似12条14丁目       |
| ☆三沢正博  | 062    | 〃 豊平区福住257-29        |
| ☆佐藤忠利  | 064    | 〃 中央区南23条西12丁目 紫藻寮   |
| 西館京子   | 062    | 〃 白石区吉葉町5丁目B5-401    |
| ☆木村喜壬治 | 003    | 〃 白石区本通17南11-14      |
| ☆相沢治雄  | 063    | 〃 西区発寒11条5丁目11-8-105 |
| ☆官岸忠孝  | 062    | 〃 豊平区西岡2条11丁目        |
| ☆浜中稔   | 061-02 | 当別町西小川通61            |
| ☆小淵修子  | 060    | 札幌市中央区大通西15丁目1-12    |
| 小林貴美子  | 060    | 〃 中央区北20条西15丁目       |
| ☆児玉広夫  | 061-11 | 広島町広葉町1-1-16         |
| ☆大友柄一  | 061-01 | 札幌市厚別西2-2-12         |
| ☆大友チエ  | 〃      | 〃                    |
| ☆高橋要一  | 062    | 〃 豊平区豊平6条9丁目道管住宅933  |
| ☆藤村恵明  | 001    | 〃 北区新琴似6条11丁目        |
| ☆吉田栄   | 041-11 | 亀田郡七飯町字大川102-7       |
| ☆市川忠   | 040    | 函館市田家町12-15          |
| ☆山賀勇   | 047    | 小樽市花園町3-8-13         |
| ☆江口音吉  | 047    | 〃 奥沢1-24-21          |
| ☆平田岩雄  | 050    | 室蘭市高砂町5-9-3          |
| ☆須藤昭三  | 050    | 〃 高砂町1-43-12         |
| ☆星田淳   | 053    | 苫小牧市字糸井393-83        |
| ☆星田文子  | 〃      | 〃                    |
| ☆星田望   | 〃      | 〃                    |
| ☆北島瞳   | 053    | 〃 山手町2-1-2           |
| 影浦泰子   | 053    | 〃 北光町3-6-7           |
| 浜田国真   | 089-39 | 足寄町星見ガ丘5-14          |
| ☆新田為男  | 069-11 | 夕張郡由仁町字三川            |



## 第45回北海道大会講演

### 「国際交流と言語問題」 (要約)

J E I 広報部長 梅田 善美

今日のテーマについてお話しをする前に、エスペラント大会の目的とするところは何かということにふれてみたいと思います。

ザメンホフは、大会演説の中で、私達エスペランティストの大会には二つの目的があるとのべています。

第一は、私達が集まり、同じ言葉を使い、その言葉が正しく使われているかどうかを確かめ合い、お互いに学び合う、ということです。

私達は、日頃学んでいるエスペラントを、大会においてのみ実際に使うことができるわけです。

第二の目的は、一般大衆に、エスペラントを学ぶことによつて何ができるか、つまり、エスペラントの有用性について知らせることです。

今日のJ E I第45回大会においては、第一の目的については、ほぼ達せられていると思われませんが、第二の目的についてはどうでしょうか。大会を準備された方々が、この大会のことについて報道機関に事前に知らせたにもかかわらず、エスペラント大会とはどういうものであるか取材のために誰も来ていないようです。

大会を開くということは、この二つの目的のためなのです。北海道では、丁度50年前に第1回の大会が持たれました。半世紀前です。来年は、50年目にあたるわけですから、この二つの目的が同時に達せられるように希望します。

さて、今日のテーマに入りましょう。

世界中では、3000以上の言葉が話されています。その3000以上の言葉のうちから、話している人間の数によつて10大言語といわれているのは、次の言語です。

1 中国語。 2 英語。 3 ロシア語。 4 ヒンズー語。 5 スペイン語。 6 インドネシア語。 7 アラビア語。 8 ポルトガル語。 9 ベンガル語。 10 日本語。 話している人数からすれば日本語は



違いが多くあります。エスペラントについても同じことが言えます。エスペラントで *eventuala* は、「偶然」と言う意味がありますが、英語では綴りがほとんど同じの *eventually* は「ついに」を意味するように、全然違ったものになります。ですから英語圏の者がエスペラントで “*Mi eventuale venis al Sapro*” と言うのと “*Mi hazarde venis al Sapro*” では意味が全然違うわけです。このように、英語とエスペラントでさえも単語の持つ意味が同じではないのです。

国際交流における重要な問題は、文化の交流、文化の違いによる言語の多様性にあるといえます。日本人は控えめな国民性を持っています。例えば、今日の大会の議長が、挨拶の中で「私にはその能力はありませんが・・・」という表現をしましたが、これは全く日本的な表現です。もし彼が外国でこういうことを言つたなら「何故議長を引き受けたか」と言つて、すぐに解任されてしまうでしょう。鈴木首相がオタワサミットで「和」ということをよく使いました。これもまたむづかしいことです。「和」という言葉には *harmonio, paco, konkordo, konsilo* というような訳語があります。ですから、「和の精神」というのは、単に *spirito de harmonio* と訳しても、これは理解されないのです。このような場合は充分注意しなければなりませんし、また訳さなければ誤解されるわけです。「玉虫色」もそうです。エスペラントでは *kompromiso* と訳すことができますが、ヨーロッパ語系の意味は違います。妥協を意味します。これもまた通訳する時の問題の一つです。日本人には、「その問題につきましては、前向きに考えて善処したいと思います。よろしく御賢察ください。」という表現があります。“*Pri tiu problemo antaŭen flanken pripensas, mi bone aranĝos, bonvole saĝe pripensu tion*” — これでは意味が通じません。こういう時に通訳者は、話している者が、どういうことを言わんとしているのかを良く理解しなければならないのです。“*Tio estas iom malfacila problemo, do mi nun ne povas rekte respondi*” とすればよいわけです。日本語とエスペラント訳とはずいぶん違うように見えますが、本当の意味はこういうことです。このようにして、通訳するということは、正確な意味を考えないことから問題が生じるのです。

言語の構造について考えてみましょう。

日本語の構成についてみてみましょう。

日本人にとって、エスペラントはむづかしいと言います。ヨーロッパ語系ですから、確かにそうです。

私は、今日、札幌に来ました。

来ました、私は、札幌に、今日。

私は、札幌に来ました、今日。

札幌に、今日、私は来ました。

日本語では、どの言い方でも解ります。これはエスペラントでも同じなのです。エスペラントは、語順を変えることができます。それは日本語と考え方が全く同じなわけですが、英語では絶対にそういうことは許されないことです。エスペラントの場合には、語尾によつて、文法上だけでなく、実際に語尾を正確に使うことによつて、どのような話しなのかよくわかるわけです。

私は、J E Iで実用専科というクラスを指導しています。これはすぐに実用することを目的としていますし、日本語をすぐにエスペラントに置き代えることを目的として指導しています。ここに丁度良いテキストがあります。

「ポーランドのザメンホフは、民族理解の大きな妨げである言語の障壁を破るために、単純な文法によるエスペラントを世界の共通語にしようと努力した。これを直接訳すわけです。「頭ごなし訳」といつています。

*Pola Zamenhof nacian komprenon grave malhelpas la lingvaj baroj kiujn rompi —* このように日本語をすぐにそのままエスペラントに訳していくのです。—— *per simpla gramatiko esperanton kiel mondan komunan lingvon, tiel li klopodis.* そのうえで、あとでちゃんとした文章にします。

英語ではこういうわけにはいきません。品詞語尾を間違いなく使うことによつて、エスペラントはこのように日本語をそのまま置き代えられるのです。良く理解されるのです。

日本語は、最後の言葉に気を付けなければなりません。

「この問題については、私は、こう考えているんです—— が」「どういたしましょう—— か」

エスペラントについてもこれは同じです。こういう点からもエスペラントは、日本人にとっては学びやすいものと言えます。しかし、日本のエス

ベランチストは、こういう利点のあることも忘れてはいるのです。言葉としてのエスペラントは、むづかしいと言います。確かにむづかしいものです。

札幌ではどうか知りませんが、東京にはるるの余りの英語塾或いは語学院があり、主に英語を教えてすべて繁盛しています。これは日本中、どこにでも言えることです。学校での英語教育が充分でないということです。だから高校、大学等を卒業して更にこういう所に通つて英語の能力を向上させなければならぬわけです。これは他の国では見られない現象なのです。今年の春、アメリカに行つた時、アメリカの英語学校に行つてみました。日本の大学を卒業した者も多くいて英語を学んでいるのですが、他の国の人々と比べると、日本の学生はおくれをとつているのです。日本の親たちは、子どもに英語を習わせるために大変なお金と時間をかけています。もし、これだけのお金と時間をかけるのなら、私は、エスペラントを習いなさいと言いたいのです。

エスペラントは、橋わたしの言葉（Ponolingvo）或いは他の言葉の基礎になり、他の語学の学習に役立つのです。尾道市に在住の貝沼愛三さんはエスペラントを習うまでは外国語は全然知らなかつたのですが、エスペラントを語学学習の基礎として、現在では8カ国語をマスターしています。

日本人がエスペラントを学ぶ利点がまだあることに言及したいのです。発音についてです。例えば、日本人には、e、êの発音はとても容易なものです。ただ、日本人には難かしいとされているL、Rの発音については少し問題かも知れませんが、これは少しの訓練で容易に発音が区別されるものです。êについては、英語族については難かしいものです。また、母音についても同じです。フランス人、ドイツ人にしてもそうです。日本人にとつて、日本語の構造にない文法上のことだけが少々容易でないと言えるでしょう。

エスペランチストとしての私は、いつも外国を訪れるときはエスペラントを使つています。そして、エスペラントは非常に実用的であり、非常に役立つ言葉であると信じています。すべての事柄についてエスペラントを使つています。どんな場合でもエスペラントを使うことをおすすめしたいのです。

毎日、外国から日本の報道機関にどれだけのニュースが送られて来ていると思いますか。60万〜70万語のニュースを受けているのです。このうち私達が読んでいるのは1/2分の1の5万語だけです。さまざまなニュースを読んでいます、60万語のうちから5万語だけです。日本から外国へ流

されるニュースは5万語だけです。ニュースについては輸入超過ということになりますネ——。日本人の方がヨーロッパの国々の出来事について知っています。日本の国のことについてはどうでしょうか。送り出した5万語のうちの1/2分の1しか報道されないとすると、センセーショナルな記事だけが報道されることになるのも当然のことでしょう。言語の問題から日本から外国へ報道が送られないのです。

日本の科学者、文学者等の中で直接英語で日本の歴史や文学等を訳している人が居ますか。科学の分野では論文については少しはあります。しかしこれも外国人に添削されるといいます。日本人は英語が苦手なため自分で直接書かないのです。日本文学史もそうです。日本人が直接英訳しなければならないことではないでしょうか。

そこで、私達エスペ란チストは、いろいろな日本の出来事を外国へ送ることをしなければならないと思います。

エスペラントによるニュースセンターが日本各地に出来たとすれば、世間は注目するでしょう。そしてエスペラントは、テレビや新聞、ラジオでも取り上げられるでしょう。私達エスペランチストにはその責任があると思います。

まとまりのないお話しをしましたが、ギリシャの哲学者ソクラテスの言葉を借りて終わります。

"Se vi ricevis nur unu aeron da informo, kiun vi povas enmeti en vian poŝon aŭskultinte la pleregion, mi estas feliĉulo."

"Se vi hodiaŭ elĉerpis iun etan aeron, kiun vi povas hejmenporti en via poŝo, mi estas pli ol feliĉa. Dankon!"

(1981年7月26日)

第46回北海道エスペラント大会記念出版

# エスペラント文献目録

## 第1部戦前編

北海道エスペラント連盟所蔵

1982 - 8

## 発刊に寄せて

児玉 広夫

私は、前号のLEONTODO N-ro 67の「HEL活動の昨今!」の中で、当面のHEL活動として為さねばならぬものの一つに、HEL所蔵の図書目録を作成し、会員に図書の貸し出しを行う、と記したが、その時は未だ具体的な作業手順も決まらず、早急に為すべき検討課題であるとの認識に留っていたのであるが、事實は、三沢教授が御多忙にもかかわらず今年に入ってから、蔵書目録の作成に着手され、こうして第46回北海道大会を記念して「エスペラント文献目録 - 第1部戦前編」を会員の皆さんに配付できるまでに至っていたのである。三沢正博教授に心から感謝申しあげたい。

また、今回の目録作成を機に2度ほど教授宅を訪れたが、その際教授夫人もまた盲目の方々への朗読奉仕として、みすず書房発行・高杉一郎編・「エロシエンコ全集3」を熟読し、それを録音するという、寸暇を惜しんで努力されており、御夫妻のこうした静かなる情熱に深い敬意を払わずにはいられない。

「古きを温ね新しきを知る」の諺を、私は、例えば、長谷川二葉亭著・世界語(エスペラント)や1928年発行、KABE ELIZA PRZESZK 訳の La Interrmpita Kanto Kun LA PERMESO DE LA AŬTRINO の古書などを手にして、ひしひしと感じている。

教授もいわれているように、この目録がきっかけとなつて「北海道エスペラント運動史」がまとまり、運動の先達者と現在の活動家、更にはこれを受け継ぐ若者たちが真に La Tagigo の冒頭にあるように、Agordu la brustojn honia fratar! となつて、運動が飛躍的に発展することを願つて止まない次第である。

1982年(昭和57)7月25日記

## はじめに

エスペラント・センターが閉鎖のやむなきにいたり、蔵書の保管について困っているとのことをお聞きしましたので、よろしかったら私の研究室でお預りしましょうか、と申しましたところ、佐藤忠利さんを通して、そのようにしてほしいとの御返事をいただきました。お預りする以上は、預り証ともいふべき蔵書目録を作成しなければなりません。今年にはいってから毎日ポツポツとタイプをうち続け、ようやくここまで出来上りましたので、大会の機会に皆様に配布していただけることになりました。

ここに収録いたしましたものは、第一部戦前編とでもいふべきもので1906年から1944年までに出版されたものであります。ポケットにねじこんでKUNVENOに通ったかと思われるような小さな汚れた本、書きこみのたくさんある学習書、あるいは全国的にみても貴重な原本などを一冊一冊手にしながら、思ったことは、風雪の夜、しかも冬の時代といわれる戦前の厳しい弾圧のなかで、寄り集まってはエスペラント学習を続けた大先輩たちの姿であります。

ほそほそではあっても、こうして続けられた国際語運動の軌跡は、しっかりと記録に残しておかなければならないでしょう。この目録がきっかけになって「北海道エスペラント運動史」をまとめるような動きが始まることを期待しないではいられません。

社会全体が合理主義実利主義を最高価値としているなかで、青年たちも、夢や理想や未来を語らなくなりつつあります。夢や理想や未来を語らぬところにエスペラント運動はあり得ません。未来を語るためのきっかけは、過去への関心、歴史的反省であり、それは結局、身のまわりの親をはじめ先達たち先輩たちの歩みにたいする謙虚な関心と尊敬の念であります。

そんな意味もこめて、ここに、エスペラント文献目録第一部戦前編をお贈りします。

私の在職中は、少なくとも、研究室の書箱にたいせつに保管いたします。御利用の節は一週間ほど前に御連絡ください。

札幌市中央区南22条西12丁目 北海道教育大学札幌分校  
教育史研究室  
電話 011-561-4281 内線316

三沢正博  
札幌市豊平区福住3条12丁目257番地の29  
電話 011-854-4440

1982 (昭和57) 年7月17日記

1906

ELEMENTA FOTOGRAFA OPTIKO, ORIGINALE VERKITA EN  
Esperanto DE KARLO - VERKS, PARIS, PRESA ESPERANTISTA  
SOCIETO, 1906

世界語 (エスペラント), 長谷川三葉亭著, 四版, 東京, 彩雲閣發行,  
1906

世界語読本, ドクトル、ザメンゴフ, 長谷川三葉亭注訳, 東京, 彩雲閣發行,  
1906

1907

NAULINGVA ETIMOLOGIA LEKSIKONO DE LA LINGVO ESPE-  
RANTO DE Louis BASTIEN, PARIS, PRESA ESPERANTISTA  
SOCIETO, 1907

RAKONTOJ AL MIA BELULINO, JEAN BACH-SISLEY, Kun per-  
meso de la aŭtoro, el franca lingvo esperatigis L.  
TOUCHEBEUF, PARIS, PRESA ESPERANTISTA SOCIETO, 1907

1908

THE ENGLISH-ESPERANTO DICTIONARY BASED UPON THE  
"FUNDAMENTO", THE ESPERANTO LITERATURE, AND THE  
NATIONAL-ESPERANTO DICTIONARIES BEARING DR. ZAMENHOF'S  
"APROBO", JOSEPH RHODES, 1908, LONDON

1909

COURS MÉTHODIQUE d'Esperanto, CAMILLE AYMONIER,  
PARIS, 1909



1910

Proverbaro Esperanta laŭ la verko frazeologio rusa-pola-franca-germana de V. F. ZAMENHOF aranĝis L. L. ZAMENHOF, PARIS, 1910

Proverbaro Esperanta laŭ la verko frazeologio rusa-pola-franca-germana de M. F. ZAMENHOF aranĝis L. L. ZAMENHOF, PARIS, 1910

1912

LA BIBLIO TRIA LIBRO LEVIDOJ, EL LA ORIGINALO TRADUKIS Dr<sup>o</sup> L. L. ZAMENHOF, PARIS, 1912

1914

DEKA UNIVERSALA KONGRESO DE ESPERANTO PARIS 2-9 AUGUSTO 1914, MANLIBRO DE LA KONGRESANO

1920

エスペラント模範練習読本, ザメンホフ博士原著, 小坂工学上編次注解, 1920, 日本エスペラント社発行

1921

Dokumentoj de Esperanto Informilo pri la historio kaj organizo de la Esperanta movado, Kunmetita de Dr<sup>o</sup> A. Möbusz, Berlin, 1921

La Lastaj Tagoj de Dr<sup>o</sup> L. L. Zamenhof kaj la Funebra Ceremonio, Eldonis Adolfo Oberrotman kaj Teo Jung, 1921, Eldonejo de "Esperanto Triumfonta", Kolonjo-Horrem, Germ.

La Revuo Orienta

|               |    |      |
|---------------|----|------|
| JARO I, N-RO  | 1  | 1920 |
|               | 2  | 1920 |
|               | 3  | 1920 |
|               | 4  | 1920 |
|               | 5  | 1920 |
|               | 6  | 1920 |
|               | 7  | 1920 |
|               | 8  | 1920 |
|               | 9  | 1920 |
|               | 10 | 1920 |
|               | 11 | 1920 |
|               | 12 | 1920 |
| JARO II, N-RO | 1  | 1921 |
|               | 2  | 1921 |
|               | 3  | 1921 |
|               | 4  | 1921 |
|               | 5  | 1921 |
|               | 6  | 1921 |
|               | 7  | 1921 |
|               | 8  | 1921 |
|               | 9  | 1921 |
|               | 10 | 1921 |
|               | 11 | 1921 |
|               | 12 | 1921 |

PERLOJ EL LA ORIENTO, K. OSSAKA, TRADUKOJ EL JAPANAJ KAJ ĤINAJ KLASIKAJ VERKOJ, JAPANA ESPERANTA ASOCIO, TOKYO, Taiŝo 10 nen / 9 2 /

Legolibreto, Tradukis J. BOREL, ESPERANTA-BIBLIOTEKO INTERACIA, 1920, Dresden-A.1, Ader & Borel G. m. b. H., Esperanto-Verlag

1922

ESPERANTA LEGOLIBRO KAJ KRESTOMATIO DE T. CHIF, OSAKA, "Verda Utopio", 1922

ITALAJ RAKONTOJ, EDMONDO DE AMICIS, Esperanten tradukitaj el itala teksto DE D-RO P. C. MONTI, 1922

Komerca Korespondo, Kunmetis J. Borel, 1922, Berlin kaj Dresden, ESPERANTA BIBLIOTEKO INTERNACIA

|                |    |      |
|----------------|----|------|
| JARO III, N-RO | 1  | 1922 |
|                | 2  | 1922 |
|                | 3  | 1922 |
|                | 4  | 1922 |
|                | 5  | 1922 |
|                | 6  | 1922 |
|                | 7  | 1922 |
|                | 8  | 1922 |
|                | 9  | 1922 |
|                | 10 | 1922 |
|                | 11 | 1922 |
|                | 12 | 1922 |

Praktika Frazaro, Dialogoj de la ĉiutaga vivo,  
Kunmetis J. Borel, 1922, Esperanto-Verlag Ellersiek  
& Borel, Berlin kaj Dresden

UNIVERSALA LEGOLIBRO, Modelaj tradukaĵoj el la tut-  
monda literaturo kaj originalaĵoj Esperantaj, Berlin,  
1922

1923

正則エスペラント講義録，第一卷，世界思潮研究会発行，1923

正則エスペラント講義録，第二卷，世界思潮研究会発行，1923

正則エスペラント講義録，第三卷，世界思潮研究会発行，1923

正則エスペラント講義録，第四卷，世界思潮研究会発行，1923

正則エスペラント講義録，第五卷，世界思潮研究会発行，1923

正則エスペラント講義録，第六卷，世界思潮研究会発行，1923

愛の人ザメンホフ、エトモン・ブリウテ 一著 松崎克己訳、1923、  
博文閣

LA OFICIALA RADIKARO kun enkonduko kaj notoj,  
ERGEN WÜSTER, Esperanto-Verlag Ellersiek & Borel,  
Berlin, 1923

La Revuo Orienta

|               |    |      |
|---------------|----|------|
| JARO IV, N-RO | 1  | 1923 |
|               | 2  | 1923 |
|               | 3  | 1923 |
|               | 4  | 1923 |
|               | 5  | 1923 |
|               | 6  | 1923 |
|               | 7  | 1923 |
|               | 8  | 1923 |
|               | 9  | 1923 |
|               | 10 | 1923 |
|               | 11 | 1923 |
|               | 12 | 1923 |

LA VORTOJ DE KONFUCIO, TRADUKIS K. OSSAKA, 1923

VIVO DE ZAMENHOF, EDMON PRIVAT, FERDINAND HIRT &  
SOHN EN LEIPZIG, 1923

1924

エスペラント やさしい読物 (註訳附)、松崎克己、1924、  
日本エスペラント学会発行

エスペラント やさしい読物 (註訳附)、松崎克己、1924、  
日本エスペラント学会発行

我国における外国語問題とエスペラント、八木日出雄、1924、カニヤ書店

LA RABENO DE BAŬARAŬ, HENRI HEINE, LA GIMNAZIO,  
SALOM ALEJHEM, TRADUKIS LA UNUAN VERKON EL GERMANA  
LINGVO, LA DUAN EL LA HEBRA De L. L. ZAMENHOF,  
PARIS, ESPERANTISTA CENTRA LIBREJO, 1924

La Revuo Orienta

|              |    |      |
|--------------|----|------|
| JARO V, N-RO | 1  | 1924 |
|              | 2  | 1924 |
|              | 3  | 1924 |
|              | 4  | 1924 |
|              | 5  | 1924 |
|              | 6  | 1924 |
|              | 7  | 1924 |
|              | 8  | 1924 |
|              | 9  | 1924 |
|              | 10 | 1924 |
|              | 11 | 1924 |
|              | 12 | 1924 |

LA VORTOJ DE KONFUCIO, TRADUKIS K. OSSAKA, 1924

PAROLADOJ DE D-RO L.L. ZAMENHOF, KIOTO, LA KANIJA  
LIBREJO, TERAMACI EBISGAUA, 1924

PAROLADOJ DE D-RO L. L. ZAMENHOF, KIOTO, LA KANIJA  
LIBREJO, 1924

PRAKTIKA INTERPAROLADO ESPERANTO-JAPANA, E. Asai,  
1924, NIPPON ESPERANTO-ŜA

Rusaj Rakontoj, Fabeloj al Helenjo, Mamin Sibirjak,  
Tradukis N. kabanov, 1924, Berlin kaj Dresden

1925

Atta Troll, Somernokta Sonĝo, Heinrich Heine, Tradu-  
ko de Zanoni, 1925, Berlin & Dresden

KARLO de Dro Edmondo Privat, 1925, Tokio

LEGU KAJ PAROLU! ESPRANTA LEGOLIBRO, JULIE ŠUPICHOVÁ, Eldonanto ŠOLC A ŠIMÁČEK, PRAHA, 1925

1926

PALACO DE DANĜERO, Rakonto pri Madame la Pompadour, MABEL WAGNALLS, Tradukis el la angla originalo Edward S. Payson, Honora Prezidanto de la Esperanto Asocio de Nordameriko, FERDINAND HIRT UND SOHN EN LEIPZIG, 1926, ESPERANTO-FAKO

PILGRIMO, POEMARO, JULIO BAGHY, ELDONO DE LA AUTORO, BUDAPEST, 1926

Sekspsikologio, Originalo de Siegfried Ziegler, 1926, ELDONA FAKO KOOPERATIVA, LEIPZIG

VERDA MATENO, HIROKAZU KAĜI, TOKIO, ESPERANTO-KENKJU-SA, Taiŝo 15 nen

VERDKATA TESTAMENTO DE RAYMOND SCHWARTZ, PARIS, ESPERANTA PRESEJO J. SOLSONA, 1926

国際語エスペラント講習用書, 小坂猪三, 1926, 日本エスペラント学会

1927

カルロ, エドモンド・ブリュ, 著, 川原次吉郎脚注, 1927, 四方堂

GVIDLIBRETO POR JAPANLANDO, 37 ILUSTRAĴOJ, 9 LANDKARTOJ, Tradukita de la Redakcio de JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO, Eldonita de JAPANA MINISTREJO DE STAT-FERVOJOJ, TOKIO, 1927

GVIDLIBRETO POR JAPANLANDO, 37 ILUSTRAĴOJ, 9 LANDKARTOJ, Tradukita de la Redakcio de JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO, 1927

LA PATRO REVENAS, KAN KIKUĈI, El la japana tradukis  
HIROKAZU KAĴI, 1927, ESPERANTO-KENKJU-SA

La Revuo Orienta

|                 |    |      |           |
|-----------------|----|------|-----------|
| JARO VIII, N-RO | 1  | 1927 |           |
|                 | 2  | 1927 |           |
|                 | 3  | 1927 |           |
|                 | 4  | 1927 |           |
|                 | 5  | 1927 |           |
|                 | 6  | 1927 |           |
|                 | 7  | 1927 | JULIO     |
|                 | 8  | 1927 | 5, JULIO  |
|                 | 9  | 1927 | AUGUSTO   |
|                 | 10 | 1927 | SEPTEMBRO |
|                 | 11 | 1927 | OKTOBRO   |
|                 | 12 | 1927 | NOVEMBRO  |
|                 | 13 | 1927 | DECEMBRO  |

LINGVAJ RESPONDOJ (PLENA KOLEKTO) APERINTAJ EN LA  
ESPERANTISTO(1889-1893) LA REVUO(1906-1908) LA OFI-  
CIALA GAZETO(1911-1912) kaj aliaj gazetoj, LETERO  
PRI LA DEVENO DE ESPERANTO, DUA ELDONO, PARIS, 1927

POPULARAJ KANTOJ en Japanio, KOLEKTO UNUA, 1927,  
KOKUSAIGO-KENKJŪ-SA, ŜOUNA 2 NEN

ZAMENHOF-RADIKARO KUN DERIVAĴOJ KAJ FONTINDIKOJ,  
EUGEN WÜSTER, PRIZORGITA DE PAUL KIRSCHKE, 1927,  
FERDINAND HIRT & SOHN EN LEIPZIG

1928

AELITA au La Marso formortanta, Alekseo Tolstoj, El  
rusa lingvo tradukita de E. Pill, Ilustrita de Geo  
Schmidt, 1928, Heroldo de Esperanto, Horeem bei köln  
(Germanujo)

AMO KAJ POEZIO, JAN VAN SCHOOR, ANTWERPEN, 1928

Kion rakontas La amikoj de Peĉjo, FABELOJ DE  
HERMYNIA ZUR MÜHLEN, 1928, ELDONA FAKO KOOPERATIVA,  
LEIPZIG

La Interrompita Kanto KUN LA PERMESO DE L'AUTORINO,  
TRADUKIS EL LA POLA LINGVO KABE, ELIZA ORZESZKO,  
PARIS, ESPERANTISTA CENTRA LIBREJO, 1928

LA KONSCIENCO RIPROĈAS DE AUGUST STRINDBERG, EL LA  
SVEDA LINGVO ESPERANTIGIS G. H. BACKMAN, MALMÖ, 1928

La Revuo Orienta

|               |    |      |
|---------------|----|------|
| JARO IX, N-RO | 1  | 1928 |
|               | 2  | 1928 |
|               | 3  | 1928 |
|               | 4  | 1928 |
|               | 5  | 1928 |
|               | 6  | 1928 |
|               | 7  | 1928 |
|               | 8  | 1928 |
|               | 9  | 1928 |
|               | 10 | 1928 |
|               | 11 | 1928 |
|               | 12 | 1928 |

LA REVIZORO, Komedio en kvin aktoj, N. V. GOGOL,  
EL RUSA LINGVO TRADUKIS DR. L. L. ZAMENHOF, DUA EL-  
DONO, PARIS, ESPERANTISTA CENTRA LIBREJO, 1928

VERDA MATENO, TUTMONDA KURSA LEGOLIBRO, HIROKAZU KAJI,  
TOKIO, ESPERANTO-KENKJU-SA, SĜUA 3 NEN

エスペラント捷徑, 小坂猶二, 1928, 日本エスペラント学会

エスペラント捷徑, 小坂猶二, 1928, 日本エスペラント学会

エスペラント講用書, 小坂猶二, 日本エスペラント学会, 1928年

ハイネ詩集, 城戸崎益敏訳注, 日本エスペラント学会発行昭和3年



BELA JOE, Angle verkita de MARSHALL SAUNDERS, TRADUKITA ESPERANTEN DE J. BLAICKIE KAJ N. HOHLOV KUN LA PERMESO DE LA AUTORINO KAJ LA ELDONISTOJ, ILUSTRITA DE D. COPELAND, BRITA ESPERANITSTA ASOCIO, LONDON, 1929

EN OKCIDENTO NENIO NOVA, ERICH MARIA REMARQUE, EL GERMANA LINGVO TRADUKITA DE KVAR, 1929, HEROLDO DE ESPERANTO / KÖLN

Gajaj Horoj por Esperantistoj, C. Walter, Spritaĵoj, Anekdotoj, ŝercdemandoj, Preseraroj, Vortludoj, Societludoj por amuzigi grupojn, izolulojn, kursgvidantojn, lernantojn., Berlin, 1929

HAMLETO REĜIDO DE DANUJO, W. SHAKESPEARE, TRADUKIS L. ZAMENHOF, SEPA ELDONO, PARIS, ESPERANTISTA CENTRA LIBREJO, 1929

Hodinka, LEO TOLSTOJ, 1929, SENNACIECA ASOCIO TUTMONDA, LEIPZIG

La Blankĉevala Rajdanto, Theodor Storm, Tradukita el la germana lingvo de Heino Heitmüller, 1929, Heroldo de Esperanto, Köln, Germanujo

La Revuo Orienta

|              |    |      |
|--------------|----|------|
| JARO X, N-RO | 1  | 1929 |
|              | 2  | 1929 |
|              | 3  | 1929 |
|              | 4  | 1929 |
|              | 5  | 1929 |
|              | 6  | 1929 |
|              | 7  | 1929 |
|              | 8  | 1929 |
|              | 9  | 1929 |
|              | 10 | 1929 |
|              | 11 | 1929 |
|              | 12 | 1929 |

MARJO, LIBRETO POR KOMENCANTOJ DE HENNY WIDSTRÖM, STOCKHOLM, 1929

Rido sanigas!, Humoro kaj sprito, ELDONEJO A. PAOLET,  
S. VITO AL TAGLIAMENTO (ITALIA), 1929

PETRO KURSA LERNOLIBRO POR LABORISTOJ, 1929, ELDONA  
FAKO KOOPERATIVA, LEIPZIG

新エス和辞典, 橋本和著, 1929, 大日本エスペラント会

エスペラント発音研究, 岡本好次, 日本エスペラント学会, 大正14年

愛の人ザメンホフ, エトモン・ブリヴァー著 松崎克己訳, 1929,  
日本エスペラント学会

1930

ESPERANTO, KIBOŝA, NO. I MARTO - 1930  
Eldonejo KOBOŝA, Espera Societo, TOKIO

- NO. 1 MARTO 1930
- NO. 2 APRILO 1930
- NO. 3 MAJO 1930
- NO. 4 JUNIO 1930
- NO. 5 JULIO 1930
- NO. 6 AUGUSTO 1930
- NO. 7 SEPTEMBRO 1930
- NO. 8 OKTOBRO 1930
- NO. 9 NOVEMBRO 1930
- NO. 10 DECEMBRO 1930

GEORGO DANDIN Komedio en tri aktoj, MOLIÈRE, EL LA  
FRANCA LINGVO TRADUKIS Dro L. L. ZAMENHOF, TRIA ELDO-  
NO, PARIS, 1930

INFANMURDO, JŪZŌ JAMANOTO, El la japana originalo  
tradukis JOŜIŜI ŜIMOMURA, 1930, ESPERANTO-KENKJŪ-ŜA

JUNECO kaj AMO, Legendo el Venecio, Verkita de  
EDWARD S. PAYSON, 1930, THE ESPERANTO PUBLISHING  
COMPANY, LONDON

LA DEK BILDOJ DE BOVPAŝTADO, LA LIBRO DE ZEN-  
BUDHISMO, TRADUKITA EL ĤINA LINGVO DE DEI SIBAJAMA,  
BUKKAŝA, 1930

LA DEK BILDOJ DE BOVPAŝTADO, LA LIBRO DE ZEN-  
BUDHISMO, TRADUKITA EL ĤINA LINGVO DE DEI SIBAJAMA,  
BUKKAŝA, 1930

LA FERA KALKANUMO, JACK LONDON, EL LA ANGLA TRADUKIS  
GEORGO SAVILLE KUN PERMESO DE CHARMEN LONDON LA VID-  
VINO DE L'AUTORO, SENNACIECA ASOCIO TUTMONDA ELDONA  
FAKO KOOPERATIVA, LEIPZIG, 1930

LA JUNULINO EL STORMYR, El la sveda tradukis O. Frode,  
SELMA LAGERLÖF, STOCKHOLM, ELDONA SOCIETO ESPERANTO,  
1930

MALRIĈA KNABO, KIU GLORIĜIS., Dr. JAN HERBEN,  
MORAVIAJ ESPERANTO PIONIROJ, 1930

PAROLADOJ DE D-ro L. L. ZAMENHOF, Kompilita de T.  
Sasaki, TOKIO, JAPANA ESPERANTO-ASOCIO, 1930

PLENA VORTARO DE ESPERANTO, Prof. E. GROSJEAN-MAUPIN,  
UNUA ELDONO, 1930, SENNACIECA ASOCIO TUTMONDA, PARIS

POR RECENZO! DE K. R. C. STURMER, 1930, THE ESPERAN-  
TO PUBLISCHING CO., LTD., LONDON

ROSEROJ, DUA POEMARO DE ADALBERTO SMIT, 1930, LA HAGO  
NEDERLANDO

SE GRENERETO..., KENELM ROBINSON, LONDONO, 1930

SONORILO KAJ KANONO POEMARO EN PROZO, EMIL ISAC,  
EL LA RUMANA TRADUKIS TIBERIO MARARIU, 1930,  
HEROLDO DE ESPERANTO, KÖLN, GERMANLANDO

VERDKATA TESTAMENTO DE RAMOND SCHWARTZ, PARIS, 1930, 13

Traktato pri la Origino de Japana Popolo De MOTOJUKI  
TOKIEDA KUN KOMENTARIO DE D-RO G. J. RAMSTEDT, TOKIO,  
SOUA 5 NEN 1930

La Revuo Orienta

|               |    |      |
|---------------|----|------|
| JARO XI, N-RO | 1  | 1930 |
|               | 2  | 1930 |
|               | 3  | 1930 |
|               | 4  | 1930 |
|               | 5  | 1930 |
|               | 6  | 1930 |
|               | 7  | 1930 |
|               | 8  | 1930 |
|               | 9  | 1930 |
|               | 10 | 1930 |
|               | 11 | 1930 |
|               | 12 | 1930 |

模範エスペラント会話, 由里忠勝著, 1930, エスペラント研究社

エスペランチストの思出, ブルガリア アーダ 白木鶴松訳, 正文堂 昭和5

1931

EN LA NEBULO RADIO-DRAMO de JUUZO JAMAMOTO kun la  
permeso de l'autoro de Japana lingvo tradukis KIJO-  
HIKO CUJUKI, 1931, TOKIO, JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO

ETERNA BUKEDO, K. KALOCSAY, POEMOJ EL DUDEKDU LINGVOJ,  
LITERATURA MONDO BUDAPEST, 1931

FERVOJSTACIO ZNAMENKA, L. ĈERNOV, El ukraina lingvo  
trad. I. ĉernjaev, LEIPZIG, 1931

FUNDAMENTA KRESTOMATIO DE LA LINGVO ESPERANTO DE  
Dro L. L. ZAMENHOF, DEKTRIA ELDONO, PARIS, ESPERAN-  
TISTA CENTRA LIBREJO, 1931

Fundamenta Kursolibro de la lingvo internacia  
ESPERANTO, La dua eldono, Kompilita de ESPERANTO-  
PROPAGANDA ASOCIO, ŜOUA 6 NEN, KIOTO 1931

FUNDAMENTO DE ANIMO de ONISABRO DEGUĈI, OOMOTO-  
PROPAGANDA OFICEJO, ŜOUA 6 NEN 1931

Gajaj Vesperoj, C. Walter, Berlin, 1931

KARLO, FACILA LEGOLIBRO, EDMOND PRIVAT, 1931,  
Esperanto-Verlag Friedrich Ellersiek, Berlin

La Revuo Orienta

|                |    |      |
|----------------|----|------|
| JARO XII, N-RO | 1  | 1931 |
|                | 2  | 1931 |
|                | 3  | 1931 |
|                | 4  | 1931 |
|                | 5  | 1931 |
|                | 6  | 1931 |
|                | 7  | 1931 |
|                | 8  | 1931 |
|                | 9  | 1931 |
|                | 10 | 1931 |
|                | 11 | 1931 |
|                | 12 | 1931 |

La Teksto Unua, DE PROLETA ESP-KURSO, EDUKA FAKO DE  
JAPANA PROL-ESP-UNIO, TOKIO, 1931

LA VOJO RETURNE, ERICH MARIA REMARQUE, EL GERMANA  
LINGVO TRADUKIS JOSEPH F. BERGER, 1931, HEROLDO DE  
ESPERANTO/KÖLN/GERM.

ORA MASKO, RAMPO EDOGAUA, VOLUMO I, kun afabla permeso  
de la aŭtoro tradukis JOŜIŜI SIMOMURA, 1931, JAPANA  
ESPERANTO-ASOCIO, TOKIO

PROKOKOLO DE LA XIX-A KONGRESO DE JAPANJ ESPERANTISTOJ,  
KIOTO, La 16-18. Oktobro, 1931

RIMPORTRETOJ, GELERIO DE ESPERANTAJ STELOJ, PENTRIS  
K. KALOCSAY, LITERATURA MONDO, BUDAPEST 1931

UNUA KURSOLIBRO DE ESPERATNO GVIDOLIBRO, 1931,  
ELDONEJO KIBOŝA, TOKIO

VERDA KARTO SOCIO POST 50 JAROJ, EISABURO ISIHARA,  
Kinema-Dramo gajninta la Unuan Premion ĉe Konkurso  
de la ĵurnalo Osaka Asahi ŝinbun, Tradukis HIDEO  
JAMANAKA, 1931, TOKIO, JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO

ZAMENHOFA LEGOLIBRO, UNUA VOLUMO - EL TRADUKAĴOJ -  
M. KIDOSAKI, JAPANA ESPERATO-INSTITUTO, 1931

エスペラント雑本, 井上万寿蔵, 1931, 日本エスペラント学会

1932

DE PAĜO AL PAĜO, LUDOVIKO TOTSCHÉ, Eldonis LITERATURA  
MONDO, Budapest, 1932

DEZERTO, Saburō Kōga, Kun la permeso de l'auto-ro  
tradukis ŝoose Minami, 1932, ŝoua 7 nen 1932

FABLOJ DE EZOPO, KENĴI OSSAKA, 1932, JAPANA ESPERAN-  
TO-INSTITUTO

I. U. VERDA PARNASO, ORIGINALAJ KAJ TRADUKITAJ  
POEMOJ, JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO, ŝOUA 7 NEN 1932

LA KODO DE KRONPRINCO ŜOOTOKU, Tradukita de Cuna  
Takaiŝi, 1932, JAPANA BUDHANA LIGO ESPERANTISTA,  
Kioto, Japanujo

LA KODO DE KRONPRINCO ŜOOTOKU, Tradukita de Cuna  
Takaiŝi, 1932, JAPANA BUDHANA LIGO ESPERANTISTA,  
Kioto, Japanujo

LA KONFLIKTOJ EN MANĈURIO KAJ ŜANHAJO, Pri la Agado  
de U. H. A. en ĈINUJO, 1932, UNIVERSALA HOMAMA ASA-  
cio

LA KONFLIKTOJ EN MANĈURIO KAJ ŜANHAJO, Pri la Agado  
de U. H. A. EN ĉinuĵo, 1932, UNIVERSALA HOMAMA ASOCIO,  
KAMEOKA KIOTO-HU JAPANUJO

La Revuo Orienta

|                 |    |      |          |
|-----------------|----|------|----------|
| JARO XIII, N-RO | 1  | 1932 |          |
|                 | 2  | 1932 |          |
|                 | 3  | 1932 |          |
|                 | 4  | 1932 |          |
|                 | 5  | 1932 |          |
|                 | 6  | 1932 |          |
|                 | 7  | 1932 |          |
|                 | 8  | 1932 |          |
|                 | 9  | 1932 |          |
|                 | 10 | 1932 | OKTOBRO  |
|                 | 12 | 1932 | NOVEMBRO |
|                 | 13 | 1932 | DECEMBRO |

LA SUBMARINISTOJ, NOVIKOV-PRIBOJ, 1932, LEIPZIG

LEGOLIBRO DE ESPERANTAJ FABELOJ, Tradukis Joŝiŝi  
ŝimonura, 1932, Japana Esperanto-Instituto, TOKIO

LEGOLIBRO DE ESPERANTAJ FABELOJ, Tradukis Joŝiŝi  
ŝimonura, Reviziis D-ro Kolomano Kalocsay, 1932,  
Japana Esperanto-Instituto, TOKIO

PETRO KURSA LERNOLIBRO POR LABORISTOJ, SENNACIECA  
ASOCIO TUTMONDA, 1932, LEIPZIG

PROVO DE LA UNUA LEGOLIBRO EN ESPERANTO POR UZO EN  
ELEMENTAJ AU SUPLEMENTAJ LERNEJOJ, KOMPILITE VERKITA  
DE TAKEUĈI TOKIĈI, ŜOUA 7 NEN, TOKIO 1932

ŝtala Biblio de Samurajismo - PRI LA JAPANA GLAVO -  
1932, TOKIO, Japana Esperanto-Instituto

Zamenhofa Legolibro, kompilita de M. Kidosaki,  
Dua Eldono Reviziita, 1932, JAPANA ESPERANTO-INSTITU-  
TO, TOKIO, JAPANUJO

Zamenhofa Legolibro, kompilita de M. Kidosaki,  
Tria Eldono, 1932, JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO,  
TOKIO, JAPANUJO

VERKOJ de D-ro NAKAMURA, 1932, TOKIO, JAPANA ESPERAN-  
TO-INSTITUTO

初等エスペラント童話集, 下村芳司編著, カロチャイ博士校閲, 1932,  
日本エスペラント学会

エスペラントの手紙書き方と文例, 石黒 修, 昭和7年文理書院 1932

1933

BILDLIBRO SEN BILDOJ, Fusao Hajaŝi, El la japana  
tradukis Hirokazu Kaĵi kaj Haĵime ŝuto, 1933,  
ESPERANTO-KENKJU-SA

ĈIRKAU LA MONDON KUN LA VERDA STELO, DE JOSEPH R.  
SCHERER Speciala Delegito de Internacia Centra Komi-  
tato de la Esperanto-Movado en Genevo, HEROLDO DE ES-  
PERANTO, KÖLN, GERMANUJO, 1933

DANCU MARIONETOJ!, NOVELARO, JULIO BAGHY, ELDONO DE  
LITERATURA MONDO BUDAPEST, 1933

ENCIKLOPEDIO DE ESPERANTO I. VOLUMO A-ĵ  
REDAKTIS: L. KÖKÉNY kaj V. BLEIER  
INICIATINTO-ĈEFREDAKTORO: I. ŜIRJAEV  
-UNUA ELDONO- 1933-34  
LITERATURA MONDO BUDAPEST

ENCIDLOPEDIO DE ESPERANTO II. VOLUMO K-Z  
REDAKTIS: L. KÖKÉNY kaj V. BLEIER  
INICIATINTO-ĈEFREDAKTORO: I. ŜIRJAEV  
-UNUA ELDONO- 1933-34  
LITERATURA MONDO BUDAPEST



ESPERANTA LEGOLIBRO DE MONDLITERATURO, El Slava  
Literaturo, Komplita de K. Ossaka, JAPANA ESPERANTO-  
INSTITUTO, SOUA 8 NEN / 1933

Gvidlibro pri Stockholm, 1933, Stockholm

INFERO, DANTE ALIGHIERI, EL LE ITALA K. KALOCSAY,  
ELDONIS LITERATURA MONDO, BUDAPEST, MCMXXXIII / 1933

JAPANAJ FABELOJ Tradukis Anoj de Japana Esperanto-  
Societo, 1933, Eldonejo KOKUBUNŜA, Tokio

LA ARĜENTJUBILEA KONGRESO, DETALA RAPORTO PRI LA  
25-a UNIVERSALA KONGRESO DE ESPERANTO EN KÖLN 1933,  
DE TEO JUNG, 1933, HEROLDO DE ESPERANTO, KÖLN,  
GERMANUJO

La Esperanto-Klubo, - Kial fondi ĝin Kiel fondi  
ĝin Kiaj estu la programoj -, De ERNFRID MALMGREN,  
Stockholm, Eldona Societo Esperanto; 1933

LA MILITO EN MALPROKSIMA ORIENTO, KARL RADEK,  
TRAD. H. KAĴI, 1933, Japana Esperanto-Asocio,  
TOKIO, JAPANUJO

LA SAMANTA-MUKHA-PARIVARTO AU EVANGELIO DE AVALOKI-  
TESVARO, XXIV ĈAPITRO DE LA FAME KONATA BUDHISMA  
SANKTA SKRIBAĴO SADDHARMA-PUNDARIKA-SUTRO, 1933,  
JAPANA BUDHANA LIGO ESPERANTISTA, ĈINLINGVA TRADUKO  
DE KIUIĈI NOHARA

LERNOLIBRO DE ESPERANTO KURSO POR KOMENCANTOJ,  
JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO, SOUA 8 NEN / 1933

エスペラントの基礎, 石黒 修, 博文館, 昭和8年

1934

AL TORENTO NOVELO, STELLAN ENGHOLM, DUA ELDONO,  
STOCKHOLM, 1934, FÖRLAGSFÖRENINGEN ESPERANTO U.P.A.

AMO DE TOOJUUROO KAJ DU ALIAJ TEATRAĴOJ, KAN KIKUĈI,  
El la japana JOŜIŜI ŜIMOMURA, LITERATURA MONDO,  
BUDAPEST, 1934

ARTHISTORIO, ANTONO HEKLER, TRADUKIS K. KALOCSAY,  
ELDONIS "LITERATURA MONDO" BUDAPEST, 1934

AULI rakonto pri knabeto, HENDRIK ADAMSON, ELDONIS  
"LITERATURA MONDO" BUDAPEST, 1934

El la Notlibro de Praktika Esperantisto, K. R. C.  
STURMER, Eldonis "Literatura Mondo", Budapest, 1934

El la Notlibro de Praktika Esperantisto, E. R. C.  
STURMER, Eldonis "Literatura Mondo", Budapest, 1934

IVAN LA MALSAĜULO, LEO TOLSTOJ, Esperantigis V. A.  
ŜRIKOV, ESPERANTO-KENKJUŜA, ŜOUA 9 NEN, TOKIO 1934

IVAN LA MALSAĜULO, LEO TOLSTOJ, Esperantigis V. A.  
ŜRIKOV, ESPERANTO-KENKJUŜA, ŜOUA 9 NEN, TOKIO 1934

JARLIBRO de la Esperanto-Movado 1934, Universala  
Esperanto-Asocio, Genève, Svislando

TUR-STRATO 4, ORIGINALA ROMANO, HANS WEINHENGST,  
LITERATURA MONDO, Budapest, 1934

VORTOJ DE MACUE SASAKI, kompilis KLARA RONDO,  
JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO, TOKIO, ŜOUA 9 NEN 1934

1935

ESPERANTA LEGOLIBRO DE MONDLITERATURO, El Franca  
Literaturo, Kompilita de N. Kawasaki, JAPANA ESPE-  
RANTO-INSTITUTO, TOKIO, 1935

INTERPOPOLA KONDUTO, EDMOND PRIVAT, 1935, ELDONIS  
LITERATURA MONDO, BUDAPEST

LEGOLIBRO DE ESPERANTAJ FABELOJ, Tradukis Joŝiŝi  
ŝimomura, TOKIO, 1935

エスペラント会話, 久保貞次郎編, 岡本好次校閲, (エスペラント文庫 5)  
1935, 日本エスペラント学会

1936

ESPERANTA LEGOLIBRO DE MONDOLITERATURO, El Nord-  
europa Literaturo, Kompilita de TAKAGI-H, JAPANA  
ESPERANTO-INSTITUTO, TOKIO 1936

KRONIKO JAPANA, OFICIALE VERKITA NACIA HISTORIO DE  
LA ANTIKVA JAPANUJO EKDE LA MONDKREIGO GIS LA SEPA  
JARCENTO, VOLUMO DUA, GIS EKKONTAKTO KUN LA KONTI-  
NENTA CIVILIZO, El ĉin- kaj japanlingva originalo  
tradukis Kyŭiti NOHARA, JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO,  
SOUA 11 nen 1936

LERNOLIBRO DE ESPERANTO KURSO POR KOMENCANTOJ,  
JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO, SOUA 11 NEN 1936

RIGARDU LA TERON, VERKIS: HENDRIK WILLEM VAN LOON,  
Kun la permeso de l' aŭtoro el la angla originalo:  
GEORGO SAVILLE, ELDONIS: LITERATURA MONDO BUDAPEST,  
1936

1937

ARĜENTA DUOPO JUBILEA LIBRO PRI JULIO BACHY -  
KOLOMANO KALOCSAY, ELDONIS LITERATURA MONDO BUDAPEST,  
1937

KARCERO, KENSAKU SIMAKI, EL LA JAPANA ORIGINALO  
TRADUKIS Redakcio de TEMPO, 1937, KIOTO Japanio

LA STRATO DE FLŝANTA KATO, JOLANTA FÖLDES, TRADUKIS  
LADISLAO HALKA kaj LADISLAO SPIERER, ELDONIS: LITE-  
ratura mondo, BUDAPEST, 1937

ORA LIBRO DE LA ESPERANTO-MOVADO 1887-1937, REDAKTIS  
V. BLEIER E. CENSE, ELDONIS LOKA KONGRESA KOMITATO  
DE XXIX-A UNIVERSALA KONGRESO DE ESPERANTO, 1937

1938

LA VERDA STELO RIGARDATA EL LA EKSTREMA ORIENTO,  
Intimaj Paroloj de Nova Plugisto, Esperantigis  
K. Siraki, Nagoya Esperanto Asocio, SOWA 13 NEN 1938

LA VERDA STELO RIGARDATA EL LA EKSTREMA ORIENTO,  
Intimaj Paroloj de Nova Plugisto, Esperantigis  
K. Siraki, Nagoya Esperanto Asocio, SOWA 13 NEN 1938

1940

エスペラント前置詞略解, 小坂鶏二, 日本エスペラント学会, 昭和18年

外国語辞典 --ザメンホフの著書より-- 川崎直一著, 1940,  
日本エスペラント学会

以下は、発行年不明であるが、戦前のものと想像できるもの

El la Biblio, Elektitaj Ĉapitroj de la Psalmaro,  
Senterncoj de Salomono kaj Predikanto, tradukitaj el  
la originalo de Dro L. L. Zamenhof, Berlin, ESPERANTA  
BIBLIOTEKO INTERNACIA

Galerio de Zamenhofoj, Kolektita de Edvardo Wiesen-  
feld L. K., Heroldo de Esperanto, Köln, Germanujo

GINEVRA, Triakta Lirika Dramo, ORIGINALE VERKITA  
LAU MALNOVA INTERNACIA LEGENDO EL KELTA DEVENO,  
EDMON PRIVAT, UNIVERSALA ESPERANTIA LIBREJO, GENÈVE,  
SVISLANDO

JAPANUJO hieraŭ kaj hodiaŭ

(1945.)

Kondukanto DE L'INTERPAROLADO KAJ KORESPONDADO  
KUN ALDONITA Antologio Internacia, A. GRABOWSKI,  
DUA ELDONO, FRANCUJO - HACHETTE ET Cie, PARIS

KUZETO Scena bagatelaĵo en unu akto, M. BALUCKI,  
El la pola lingvo tradukis S. GRENKAMP, ELDONEJO  
ESPERANTISTA VOĈO, JASLO (Pollando)

KUZETO Scena bagatelaĵo en unu akto, M. BALUCKI,  
El la pola lingvo tradukis S. GRENKAMP, ELDONEJO  
ESPERANTISTA VOĈO, JASLO (Pollando),

LABOR-KAJERO, AL KURSA LERNOLIBRO PETRO, SENNACIECA  
ASOCIO TUTMONDA ELDON-KOOPERATIVO, LEIPZIG

LA BULGARA LANDO KAJ POPOLO KUN ETNOGRAFIA KARTO,  
Bulgara Esperanto-Biblioteko, IVAN H. KRESTANOV

LA LABORISTA ESPERANTISMO, E. LAN'TI, Sennacieca  
Asocio Tutmonda, Leipzig, Germanio

La morgaŭa virino, Dialogo originale verkita de  
ROKSANO, FRANCUJO

La plej bonaj spritaĵoj el "Munĥenaj flugantaj folioj"  
(Münchner Fliegende Blätter), Kolektitaj de H. Jost,  
Eldonejo Walther Fiedler, Leipzig;

LA PREDIKANTO Libro el la Biblio, EL LA ORIGINALO  
TRADUKIS Dro L. L. ZAMENHOF, PARIS

LA PREDIKANTO Libro el al Biblio, EL LA ORIGINALO  
TRADUKIS Dro L. L. ZAMENHOF, PARIS

LA PREDIKANTO Libro el la Biblio EL LA ORIGINALO  
TRADUKIS Dro L. L. ZAMENHOF, PARIS,

LINGVO STILO FORMO STUDIOJ, K. KALOCSAY, Librejo PIRATO

Muzilo - Kajero no.1, Prof; H. PARUZEL

NI LEGU! INTERNACIA LEGOLIBRO DE BRUNULO, Eldona  
Fako Kooperativa Leipzig, Sennacieca Asocio Tutmonda

Noveletoj el la Nigra Arbaro de Helene Christaller,  
Tradukis Wilhelm Christaller ESPERANTA BIBLIOTEKO  
INTERNACIA, DRESDEN-A 1, Ader & Borel G. m. b. H.,  
Esperanto Verlag

TRI RAKONTOJ, LEV NIKOLAJEVIĈ TOLSTOJ, Kun permeso  
de l'autoro esperantigis el la rusa originalo Maria  
ŝidlovskaja, Moskvo, Eldonejo Heckners Verlag, Wolfen-  
büttel

UNUA LEGOLIBRO, SENNACIECA ASOCIO TUTMONDA,  
PARIS,

LEONTODO n-ro 68 25, julio, 1982

Eldonejo: Hokkajda Esperanto-Ligo (HEL)

La prezidanto, Kimiharu KIMURA  
(061-01) Sapporo, Shiroishi-ku, Shiroishi-  
Hondoori 17. tel. 011-861-7564

Redaktis: Hiroo KODAMA (la ĉefsekretario de HEL)  
(061-11) Sapporo-gun, Hiroshima-machi,  
Koyo-cho 1-1-16. tel. 01137-3-0434

Tajpis: Hitomi KITABATAKE  
(053) Tomakomai, Yamate-cho 2-1-2  
tel. 0144-73-6244

Poŝtĉekkonto: (Otaru) 17075

# Bulteno de la 46a HEL-Kongreso

(1982.8.7-8, ĉe Hotelo Nordsjitejo - 札幌 南9.西1)

Nun ni sendas al nepartoprenantoj simplan bultenon de la 46a Esperanto-Kongreso de HEL, dankante por viaj subtenoj. Por ĉeestantoj enkovertis memorfotaĵon.

## ドイツ人は日本をどう見ているか

市民向け講演会 D-ro Ulrich Lins

(要旨) 私は日独間の学術、技術と交流する仕事を  
している。日本人とドイツ人は合性がないので仕事を  
を進める上で大変な誤りがある。日本人はドイツの  
ことをよく知っており、ローライにはじめて古い歌を  
たくさん唄ってくれるが、私はさっぱり知らずに、はず  
かしい思いをしたことがしばしばある。年輩の人たち  
がドイツ語で話しかけてくれるので心暖まる思いをし  
ている。ドイツ人は日本のことをあまりよく知らない、  
特に文化面で。富士山、ゲイシャ、サムライ、などが  
日本の代表的ものと考えている者が多くいる。しかし、  
最近では、自動車、マイクロ技術など、日常生活に  
おいて、日本からの経済圧迫を叱咤と感じている  
ので日本への<sup>関</sup>心が高まっている。そして日本  
はなぜ成功したかについて、次のように分析して  
いる。①日本人の文化的環境が培った団体作用  
による ②階級差別のない社会構造の中で単一社会  
を構成し、他を羨望的に見ない ③学習意欲旺盛で  
積極的に新知識を導入する ④労働者の働き  
よい社会の組織、構造 ⑤欧州では見れない  
産業構造、⑥産業間の協力、提携がうまくいっ  
ている。⑦産業の経済的發展(日本株)と並んで、  
一面、腐敗のような日本の政治等とが、超マイクロ技術

について、悪魔的所業などと酷評する者もいるが全体  
として日独間にはまわっている、今後もさらに交流を深め  
相互理解を図りたい。 -- 90分

D-ro Lins と S-ro Umeda の好意により開催す  
ることのできたこの市民向け講演会は、Esperanto大会  
はじめて以来のことであり、大きな成功であった。ただ、  
北海道新聞、北海道エスコ協会後援であったが、新聞  
記事の見出しが「エスプラントで講演」となっていたため、  
折角の記事も死んでしまい、50人ほどの集っていたの  
がまぼろし残念。詳しい講演内容は次号のレポートで

## 大会出席者34名 (新人2名)

ほとんど旧知の者はばかりの集いで、若い人の  
のはいささが淋しかった。従って地方会報告も  
平凡であったのは止むを得ない。文筆の方は  
個人文通をやっているが、地方会としての勤  
きは、若小牧と北中尾。明年の大会開催地は、  
また札幌、連盟役員も全員当任となった。

世界各地に争乱、混乱が頻発しており、相互  
理解、相互援助の欠序が痛感される。Esp-  
istoj 嘆息一番のとき。S-ro J. Umeda は  
Esp. 「実用専科」講義の中で繰返して説いた。

① aŭskultado

② legado

③ skribado

④ parolado

Ekde hodiaŭ ni praktikus denove agadon.



S-RO J.UMEDA 北見工学会へ

大会終了後 F-ino 北畠の車で北見へ向い、S-ro 大島はじめ北見-anoj と KUNSIDO をもつた。北見グループの今後の活動に期待したい。

地方会報告の中から

○ Uusink 永田夫妻が1982.6.20 来札、翌21日石狩会館にて bonveniga Kunsido.

10名参加。その時の話：ECでは全費の40%が、ほかに、通訳のために使われており、苦々めと

○ 札幌教育大では、HELのISペラント文献目録を作成してくれた三沢教授指導のもと佐藤忠利君が中心になって、講習会が行われ、海外との交通がはじかれている。

○ 札幌工学会では、Uusink 永田 在札当時盛んに interamiki gi していた、ポラント”（札幌の女教員都市）との交流が復活し、ekvinoksa tagor に同時に kunveno をもつことにしている。これは、菓子の交換と決る。

malnova novaĵo | ISペラントで博士号

ハンカリーで3人目、ブタペストにある ELTE 大学で昨年10月16日、アリヤ、シエピツク坂口さん4人の教授による最終口頭試問を見事パスして博士号を取得した。彼女の論文テーマは、外口語教授と口際語における言語モデルの作成についてで、口際語学 ISペラント語学をテーマに選んで博士号を取得したのは、ブタペストで3人目である。

(ISペラントの世界から)

Ni plialtigu sian kapablon.

大会収支報告

| 収                           | 入       | 支                 | 出       |
|-----------------------------|---------|-------------------|---------|
| 郵便振替<br>札込1396分             | 60,800  | 宿舎朝食費             | 120,805 |
| 当日参加費<br>monofero<br>21036分 | 107,800 | 会場費               | 92,800  |
| エカラ椒<br>から                  | 30,200  | 文会準備費             | 5,040   |
| ESPセター<br>から                | 134,959 | 看板代               | 20,000  |
|                             | 9,507   | 講師謝礼              | 81,000  |
|                             |         | 講師関連至費<br>(宿舎、食事) | 14,540  |
|                             |         | 写真代及送料            | 9,081   |
| 計                           | 343,266 | 計                 | 343,266 |

○ 大会記念品としての「librato 江戸小唄」及 ESP Xの mantuko は、S-ro 兎王の DONACO. (26,000円相当)。ほかに、<sup>D-10</sup>S-10 山賀、<sup>D-10</sup>S-10 中里。から飲物の寄贈があった。Koran dankon!

国と人の差別も立てず天の下に  
用き命かなん 英西仏埃蘭統語  
甲子の初春 清き大空の  
緑の色を心ともかな。

MANIERO: 知らぬマニ(間)にエーロ(偉)の様子  
が変つて、どんな仕方でどんな風にて

あとかぎ：いつもの53におそくなりには pardonon mi petas. Leontodo は何回も出せませんが、この程度のを数回出したいと思います。記事を送つて下さい。ESPセンターの精算残金41,910円は HELの資金に入金しました。会員の増増を  
1982.9.20  
\*60 札幌市中央区南1西3 4銀行7F  
中央タピオスタ学P室内  
北三毎道ISペラント連盟  
年会費 2,000円 振替小樽 17075